

2012.8.10発行

No.29

まひめの保育



発行者／愛媛県保育協議会
会長／伊東 道子
編集責任者／浅野 文子

発行所／愛媛県保育協議会
松山市持田町三丁目8番15号
愛媛県社会福祉協議会内



小富士保育所

みんなつながってるよ！



宮内保育所

どろんこたのしいな！

初級保育士研修会に参加して

今治市立鳥生保育所 越智 あかり

平成二十四年六月に県総合社会福祉会館で二日間開催された「愛媛県初級保育士研修会」に参加しました。参加者は愛媛県内の保育士計一八八名でした。

一日目。越智先生による「保育士としての喜びと責任」、曾我部先生、尾山先生によるマナー実技「社会人としてのマナー」を受講しました。

越智先生の講義ではご自身の経験から学んだ保育士の喜びと責任について、「子どもの育ちは保育で決まる」「子どもの成長は保育士と保護者の喜び」「連絡ノートは成長してから自分を確認するためのもの」等のテーマを挙げながら、子ども、保護者及び保育士の三者の視点からの保育を学びました。

曾我部先生、尾山先生によるマナーの実技では「職場、話し方・聞き方、電話、来客対応、人間関係」のマナーについて学び、受講者がグループ分けをして、ロールプレイの実践練習を用いながら学びました。

二日目。近藤先生による「子どもとのよりよいコミュニケーションを築く

ためにインリアルアプローチの基本を学ぶ」の講義でした。先生ご自身のインリアルアプローチを知るまでの経緯や重要性を話され、インリアルアプローチの基礎の初級編を講義されました。講義の最後には、それまで習ったまとめとしてDVD鑑賞、インリアルアプローチの指導前、指導後の変化について学びました。

永崎先生による実技指導では、パネルシアター、ペープサート、手ぶくろ人形を実際に披露しながら、作成方法、実演方法を学びました。また、画用紙、折り紙、新聞紙、ハンカチ等の身近にあるものを使用し、手づくり教材の楽しさ温かさを実際に作成しながら体験しました。

初めての参加で少し不安もありましたが、研修が終わってみれば全ての講義・実技とも内容が濃く、有意義な時間が過ごせた二日間でした。

保育士としての喜びと責任の自覚、社会人としてのマナー。インリアルアプローチ、パネルシアターを含む手作り教材等全て受講の内容はこれから保育士として働く私にとって重要なもの

ばかりで、一つ一つの講義が終わるたびに責任の重さを感じて身の引き締まる思いになりました。

中でも強く印象に残っているのが「保育士としての喜びと責任」の講義と「パネルシアターを含む手作り教材」の実技です。

講義の中で講師の先生から「子どもは保育士を選べない」という言葉をいただきましたが、だからこそ責任を持って子どもと接したいという思いを強くしました。保育士一年目の私にとってこの言葉は心に響く言葉となりました。子どもや保護者にとっては「一年目の先生だから」という甘えは通じません。子どもの成長をよく見、保護者と共に子どもの成長を喜びながら、「この先生に巡り会えて良かったとおもってもらえるようにしたい」、また「子どもにとって最高の出会いになるようにしたい」という思いを強くしました。

手作り教材の実技では、子どもの心のつかみ方、ちょっとした工夫だけで楽しくなる仕掛けを教えて頂きました。パネルシアターでは、絵人形を両面に描くことで人形に動きが出て表現の幅が広がったり、フラックライトを使って神秘的な雰囲気を出したり、同じ内容でも表現の方法を変えるだけで感じ方が驚くほど変わり、楽しみが広がる体験をしました。

学んだことを全てやり遂げるのはと

ても難しいことですが、焦ることなく、子どものペースにあわせながら表現していきたいと考えています。また、この度の研修で学んだ保育士としての精神を自分らしく活かし成長していきたいと思っています。



子育て支援専門研修会の報告

清水保育所 長野 千枝

六月二十八日・二十九日、愛媛県総合社会福祉会館「多目的ホール」で二四名の参加のもと行われた。

★一日目 高松短期大学保育学科

講師 山本幾代氏

乳幼児を取り巻く環境（地域、家族、生活遊び、食事など）の変化が著しい。親支援とは親の主体性の形成と自立であるため、指導や啓蒙では支援は出来ない。寄り添うことが大切である。地域の子育て力を支えるため、ボランティアの養成を積極的に行っている。

★パネル討議

テーマ「地域支援と保護者支援の充実と保育所の役割」と題して、新居浜市若宮保育園 近藤敦子保育士、松山市余戸保育園 谷村すずえ保育士、南宇和郡緑保育所 大本敦子保育士から保育所（園）での取り組みや課題などの発表があり、活発な意見が出された。

★二日目 文教大学人間科学部教授

櫻井 慶一氏

保育所は安心、安全で、ほっとできる場所でないといけない。そうすると自分が素直にだせるようになる。自

尊感情を高めるためには勇気づけ（アドー心理學から）が必要だ。

支援を必要としている家庭（子ども）に対して、保育所だけの対応は無理があり、地域のあらゆる資源（情報、人材、施設、専門機関）を活用し、チームプレーで関わっていくことが必要だ。地域で安心して暮らせるまじづくりを目指す。

良い保育（所）のための三つの基礎条件（3K）とは

1、良い環境・・・子どもが主体的に遊びこめるか、安心・安全・清潔か

2、よい関わり・・・子ども主体か、ゆったり、肯定的か、

3、よい関係・・・子どもと保育士、親と保育士、近隣の人と保育所、子ども同士、親同士など

★大阪YWCA専門学校 子どもと

子どもの本 講師 山本 淳子氏

わらべうたとは子ども同士の集団生活から自然発生的に生まれ出た唄で、それが長い間に洗練され、淘汰され、今日まで伝承されてきたものである。子守唄（寝かせ唄、遊ばせ唄）も含む。

わらべうたを楽しむことで・・・
1、五感でつながり、親子のつながりをしっかりとらせる。

2、子どもの被包感（包まれ、守られ、支えられているという感覚）を育む。

3、こどばを育てる。

唄い、話しかけられることは、赤ちゃんにとって無条件に心地よい。快であるばかりか、それがこどばへのレッスンの出発点になる。

毎日の生活の中で、子どもの心なことばがしみ込むように、語りかけ、うたいかける時間をつくってほしい。

子育て支援専門研修会に参加して

小松東保育所 佐伯 明子

近年乳幼児を取り巻く環境の変化（少子化、核家族化、生活リズムの変化に伴う子どもの身体の変調、食事の変化など）で、子どもや大人たちにも変化をもたらしている現状を踏まえ、子どもたちの健やかな育ちを支えることと、子育て中の保護者を支えることの二重構造の支援の必要性を感じると共に支援をする保育所、保育士の役割も大きくなってきました。子ども達が家庭や地域の中で、親以外の人と関わりながら育つという機会や、様々な悩みや不安を抱えて子育てする保護者が安心して心を開けるよう、思いに寄り添う支援を大事にしたいと思いました。

支援をするという事は保育所、保育士だけでなく地域の人を巻き込み、関連機関との連携や情報共有も重要であり一緒に見守り、育てていく体制を築いていくことが求められています。研修の中で自分たちの支援の形を図式化することにより良い点と問題点が明確になりました。

改めて、支援センターが地域の人たちと関連機関をどのように繋げていくかが、支援センターのより大切な役割であると思いました。





田植えを通して育つもの 〜泥んこ大好き〜

宇和島市 尾串保育園

尾串保育園は、旧宇和島市の南方に位置している住宅街の中にあります。保育園を設立した昭和四十四年、周囲は畑や田んぼばかりで蛙や鶏の音が聞こえていました。しかし、年々畑や田んぼは整地されて家が建ち始め、園の近くで田植えを見ることの少なくなりました。ましてや手植えの田植えはほとんどなく、泥んこになって遊ぶ子どもを見ることも少なくなりました。このような環境の中で育つ子どもたち、自分たちで作物を育てる喜びや大変さを経験してほしい、そして何よりも泥のぬくもりや心地よさを感じてほしい、こつこつという思いから畑や田んぼ作りを始めました。

〜はじめての田植え〜

六月二日、待ちに待った田植えです。尾串のたんぼにはもち稲苗を植えます。水を張った広々とした田んぼに、年長組が意気揚々と入りますが、中には足を取られて田植えを始める前に全



身泥だらけの子どもも：「キヤーツ」という歓声とともに笑いの渦が巻き起こります。お母さんやお父さんと一緒にいざ田植えに！教えてもらったとおり、稲苗を四〜五本ずつ取って泥土の中にしっかりと植えます。植え方が浅いと稲がプカプカ浮いてくるので、子どもたちも真剣です。「気持ちいいねー」とわざと尻もちをついたり、泥水の中に手をつ込んだりと、植え終わった後は、子どもたちの泥んこの顔が満足感にあふれています。

この経験を子どもたちの感性で捉え、五歳男児がつぶやいてくれました。

たうえ

はじめて たうえをした
たんぼのつちは どころどろ
とけた チョコレートみたい
あるくと ボフボフおとがした
なえはじょうずに ピンとうえれた
いっばいおこめができたら
おもちにして たべたいな

保護者に大好評 「保育参観試食会」

松山市 朝美保育園

昨年度、保育園で給食試食会をしました。が、「子どもと一緒に登園してきてそのまま給食の時間まで一緒に過ごしてもいいし、食事の時間だけの参加でもいい」という形態で実施しました。それが、とても保護者に好評。今年度はさらに、「参観」という視点を強調し「保育参観試食会」という行事として毎月行うことにしました。保育園が毎月三〜四日、三か月先の予定まで配布し、保護者がその中から都合の良い日を選び申し込みをします。十時頃から食事の終わる頃までの時間設定です。

今年度初めての保育参観試食会が六月八日にありました。一、三歳児クラスでは、四組の保護者が参加。朝、母親と一緒に登園するなり、たどたどしい言葉で「ママといっしょにごはんたべると楽しいにしている子ども。また、男子便器で立って排尿できる姿を見たお母さんが感動して「どうやってら保育園のようにできるんですか？」などの質問に保育士とゆったり会話することもできました。その後、お母さん方にも集団遊びに参加してもらったり、紙芝居などを子どもたちと一緒に見せたり、いよいよ食事の時間。「保育園ではお野菜食べるんですね。」「お箸を使っている子もいるんですね。」「お



4・5歳児クラス

お母さんも一緒に、体操しています。子どもたちのパワーに少々バテ気味の様子も見られました。



3・4歳児クラス

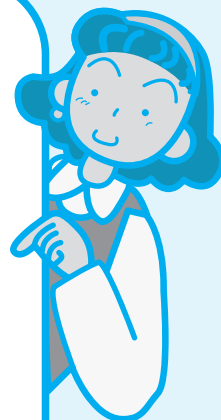
「私も教えて！」とお母さんの周りには子どもたちがいっぱいいます。

かわりもするんですか？」など保育士に聞いたり、一緒にテーブルで食べている子どもの世話をしてくれる保護者もいました。試食会後のアンケートでは、「普段の生活がよくわかりとてもいい。」「先生の大変さがわかった。」「給食を残さず食べていて驚いた。」「保育参観では、保護者が来ていない子どもが可哀そうだったが、少人数の参加なのでよいと思った。」など率直な意見が聞かれ、子どもにも保護者にも大好評の保育参観試食会になっています。

24年度の研修会 こう変わります

保育事業研修大会は……

- 会員の皆様から要望が多かった1日開催になりました。
今一番気になることを学びたい、という思いから、今年は「子ども子育て新システム」についての行政説明や、宮城県保育園からの震災報告を予定しています。
講演は、いつの時代も大切な「心」に触れる講演です。
- 愛媛県保育協議会会長表彰が新しく始まります。
式典において、保育協議会等の活動に功績があった方に、愛媛県保育協議会会長表彰を行います。



保育事業研修大会の日程は……

平成24年8月18日(土) ひめぎんホール「真珠の間」

9:45	10:30	11:15	11:25	12:15	13:15	14:15	14:30	16:00	16:10
受付	開式 式典 表彰	休憩	行政説明	昼食 休憩	震災関係 (活動報告等)	休憩	記念講演	閉会式	

記念講演 演題「いちばんじゃなくて、いいんだね ～生まれてきてくれて、ありがとう～」
講師 元マラソンランナー 松野 明美 氏

その他の研修会では……

- ・保育事業研修大会で行っていた分科会がなくなった代わりに各研修会では、テーマに沿った講師の先生の講義や、助言をもとにして各園のパネル発表や討議を充実させます。
- ・職員の資質向上を目的に、保育の実践に結びつけやすい具体的な内容が学べることをポイントに講師を選定します。



平成24年度愛媛県保育協議会は、
16支部328施設、会員3,674名です。



喜多郡支部だより

喜多郡支部では、保育の質の向上を図るために年間二～三回の講演会と、年齢別研修会に取り組んでいます。

(講演会について)

前年度に各園から揚げたテーマを園長会で検討し、共通したテーマや今必要と思われる旬なテーマを選択して、そのテーマに沿って講師の依頼を行っています。今年度は子ども心を学んだり、防災について学習したりする講演会を実施中です。

(年齢別研修について)

○歳児・五歳児部会・主任部会・給食部会に分け、年間の研修テーマを決めて、町内の五園がそれぞれ会場となり、指導案を準備して午前中公開保育(参加者も保育に参加をします。)を実施します。午後からは会場を移動し、公開保育についての意見交換やテーマに沿った研修を行うと共に、日頃の保育の悩みや情報交換を行います。各部会には部長、記録係をおき、総会に於いては各部会の代表者が一年間の研修結果を報告します。

今年度は各部会が「日常生活の中で

見つけるエコ」と題し、芝浦工業大学環境システム学科の中口教授の講演や指導を受け、全保育園が同じテーマの基、「水」に関する保育に向き合っています。

(今後の課題)

年齢別研修に取り組むようになって、主任部会は、年間三～四回の実施で研修もある程度充実していますが、他の部会は、年間一回の実施なので掲げたテーマを深めることが出来にくいのが現状です。また、全職員参加について検討していくのも急がれる課題です。



新居浜市支部だより

新居浜市保育協議会は、公私立二十六園の保育所職員及び行政関係者で構成されています。会の中には、六

部会【園長部会・主任部会・幼児部会・乳児部会・障がい児部会・給食部

会】があり、各部会で年間計画をたてて活動しています。それとは別に年2回の全体講習会と保育フォーラムを開催し、会員の資質向上を図っています。又、人形劇団ブーカム公演を鑑賞し、子どもたちの感性を豊かにし、良い心を育む文化芸術行事に取り組んでいます。そして、三月には、一年間の活動の成果をまとめ、冊子『そだち』を発刊しています。

全体講習会は、毎年、様々な分野から講師を迎え、講演・実技を実施しています。昨年は、『日本お手玉の会』顧問である武田信之先生を講師に迎え、「手から心へ、ぬくもりを」と題して、お手玉遊びの四千年の歴史について、お手玉遊びが子どもにもたらすものや脳との関係について、幼児のお手玉遊びの指導のポイントなどをお話していただきました。その後は、「楽しく歌って、お手玉を」と題して、『日本のお手玉の会』の講師の方に実技講習をしていただきました。ウォーミングアップ・揺り方の練習、講師の先生方によるお手玉演舞の披露、グループ遊びなど、参加者一同、体と脳を働かせて、和気あいあいの中、楽しく学ぶことができ、改めてお手玉の素晴らしさ、奥深さを知ることができました。各園、日々の保育の中に「お手玉遊び」を取り入れています。

新居浜市保育協議会では、「子どもが主人公子どもの幸せ」を第一義に、

その育ちを保育者、保護者をはじめとした地域社会全体で支援していけるよう、会員一同、さらなる研鑽を積み、今年度も各種事業を実施し、最終的に子どもの最善の利益につながることを目指し活動します。



編集後記



消費税増税法案のみが審議され、一番大切であるはずの「子ども子育て新システム」は先送りされました。この機会に、私たちも今一度しっかりと考え直してはどうでしょうか? 保育協議会の研修会も、皆様の意見を取り入れて変わろうとしつとあります。総務広報部会では、広く情報を発信していきたいと思っています。